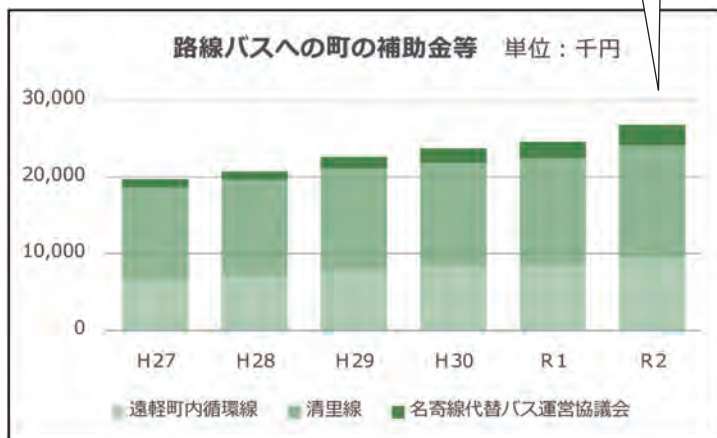


バス利用者の減少などによって町の負担は増え続けています

北海道北見バスなどが運行している路線バスについては、赤字相当額を町が補助しています。利用者の減少や運転手の人件費などの経費の増加などによって毎年補助金額が増えています。

しかしながら、自家用車を利用できない方の移動にとって欠かせない公共交通の維持は安心して暮らせるまちづくりには欠かせません。令和2年度の補助金等は約2千6百万円、1年間に町民1人当たり今より1,400円分バスを利用すると町の負担はほぼなくなります。1回が200円とすると、年に7回バスに乗れば赤字を解消できます。

5年で700万円
約36%赤字が増えています



町の大切な公共交通 JR石北本線の存続が危ぶまれています

石北本線は北海道を横断し、札幌圏と中核都市北見市などを結ぶ重要な路線ですが、利用者が減少してJR北海道単独では維持できない路線となっています。石北本線がなくなるとオホーツク地域の暮らしや産業に大きな悪影響が出ることは確実です。JR北海道全体の運行赤字は年間200億円(新型コロナウイルスの影響前)です。道民が500万人とすると1人当たり今より4千円鉄道を利用すると赤字が解消できます。



みんなで乗れば、
未来が変わる。

考えよう。行動しよう。公共交通の未来。

石北本線の開通を願った先人のはなし ～かぼちゃ団体の陳情～

大正13年(1924年)遠軽と旭川を結ぶ鉄道工事が延期されることを聞いた遠軽村では、有志52名が上京し「鉄道がないため米の値段が高く、毎日かぼちゃばかり食べている」という悲痛な訴えを省庁や政党に繰り上げました。これがマスコミに大きく取り上げられ、世論を動かし、翌年着工となりました。

石北本線の開通には、私たちの先人の強い思いが込められています。今こそ、この思いを引き継いで石北本線の存続を訴えかけなければなりません。

